



2026年6月16日掲載

テクノロジー株上昇と市場心理

先週は、金利上昇懸念からテクノロジー株が調整しましたが、今週は一転して、株価指数が上昇しています。

米国とイランが戦闘終結に向けた覚書に合意し、ホルムズ海峡が開放されて原油輸送が正常化されることへの期待が増したことで、原油価格が下落、金利も低下し、リスクオンの流れになりました。

ただし、この流れを、日経平均株価を7万円近辺に押し上げる理由と考えるのは難しいでしょう。

原油価格が元に戻るとしても、より下がるとは言えず、原油や金利動向に関わらず上昇してきたテクノロジー株のさらなる上昇を裏付ける材料は、十分ではありません。原油下落で恩恵がある運輸や石油化学などの回復は理解できますが、半導体関連銘柄が高値を抜く理由は不明確です。

本来、テクノロジー株の上昇には、人工知能(AI)需要や利益成長への信頼が必要です。今回のニュースは金利上昇懸念が遠のいたという心理的な支えになりますが、強い企業収益の発表など、新値を正当化する新しい材料が見当たりません。むしろ先週までの調整で弱っていた市場心理が、地政学リスクの後退で一時的に改善したと考える方が自然です。

最高値更新を正当化するには、例えばデータセンターの世界的な増加について、電線やメモリーなど関連する企業の売上拡大への信頼が必要で、それらの売上予想の上方修正などでキャパシティ不足懸念を払しょくできる知らせを待ちたいところです。

現在はその確信が強まったわけではなく、上昇は心理的な側面が大きいとみています。

(アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》